

奈良坂源一郎関係史料目録（一） —履歴関係資料のリスト及び解題—

Catalogue of NARASAKA Gen'ichiro's Collection, with explanatory notes Part 1: Curriculum vitae and related archives

島岡 眞 (SHIMAOKA Makoto)

〒 467-0873 名古屋市瑞穂区竹田町 2-6-N603

Abstract

NARASAKA Gen'ichiro (1854–1934) was a famous human anatomist, working for a long time for “Aichi-Igakko” (Aichi Medical School, antecedent of Nagoya University). His archival documents were recently donated to the Nagoya University Museum by his grandson, Mr. NARASAKA Hiroshi. Among others, the present article gives a list of his curriculum vitae and its related archives, including his hand-written “official and private curriculum vitae”, diploma, membership cards of several associations, letters of thanks for his donation to the funds, e.g., for disaster brought by the Nohbi earthquake and so on with brief comments.

はじめに

「奈良坂源一郎関係史料」は名古屋大学医学部の前身である愛知医学校、医学専門学校で明治 14 年から大正 10 年まで解剖学教育に生涯を捧げた奈良坂源一郎が残したもので、孫に当たる名東区在住の奈良坂宏氏から、平成 17 年 7 月に名古屋大学博物館に寄贈された。その内、『蟲魚図譜』は複製版¹⁾が刊行され、愛知教育博物館に関する資料の一部はすでに紹介されている²⁾。

その他の資料を順次紹介していく一環として、今回辞令等を含めた履歴関係の資料リストを若干の解説を含め紹介したいと思う。誌面構成上資料リストは後半に配せざるをえないため、前半では興味深い資料を幾つかの内容に分けて解説を試みることにする。

I 出生から卒業まで

1) 公私履歴書；枝番号 No.001, 図 1 (第 1 丁表裏)

奈良坂の履歴冒頭はこのような記載で始まっている。これを、奈良坂源一郎顕彰を畢生の仕事とした又甥・奈良坂源次郎氏の〈奈良坂源一郎伝〉³⁾によって簡単に紹介してみる。

1854 年、現宮城県東松島市（旧矢本町）に仙台藩士の長子として出生。父秀直は戊辰戦争を地元で旗奉行として参戦、負傷敗退している。源一郎は幼少時の右肩損傷から生涯右手を使えない身となる。漢学、漢方医学、鹿野家の画法を地元で修学の後、奥医師・石川桜所について西洋医学を学ぶ。

明治 5 年、19 歳で大学東校に変則生として入学。東校・医学校の変遷を体験しつつ、我国最初の近代医学教育を受ける。東京大学となり、第 4 期の卒業生として愛知医学校に赴任したときは、子連れの妻帯者である。

ここでは自筆履歴書の第 1 丁のみを図版として提示したが、この履歴書へ記載されながら後半の履歴関係資料リストに未収録の事項は、この解説最後に「履歴の影に」としてまとめた。

なお、資料リストにのみあり履歴書に記載のないものは、リスト備考欄に＜履歴書に無し＞と表示した。

履歴書	
醫學士 奈良坂源一	安政元年六月十五日陸奥國仙臺桃生郡大卒、村ニ生ル幼名ヲ源次郎ト稱ス幼時家庭ヲ家藏ニ受ケ慶應元年三月ヨリ同二年十月マテ仙臺城下ニ在リテ石澤新平及ビ富田平内等ニ從ヒ普通學ヲ學ビ同月朔里ニ歸ル是ヨリ傍ラ家藏ニ鹿野家ニ画ヲ學ブ同三年春ヨリ漢學川邑藏ニ從ヒ漢醫學及ビ漢書ノ素讀ヲ受ケ當時桃生郡大久保村ニ在リ此年奥羽ノ地兵乱有リ家藏モ亦軍ニ從ツテ家ニ在ラズ仍テ川邑家ヲ辭シテ御里ニ歸ル
同四年五月ヨリ漢醫熊神龍和ニ從ヒ醫學ヲ學ブ	
明治三年七月洋醫石川櫻明ニ從ヒ是ヨリ西洋醫學ヲ學ブ時萬仙臺藩地ハ府藩縣ノ三部ニ分レ御里ニ屬セリ而シテ田藩士則チ藩地ニ移住ス可キノ命アリ依テ獨リ宮城郡高城邑ニ移住シテ石川ノ元ニ通學セリ	
同四年十月東京ニ出ツ	
同五年二月大學東校ニ入り愛則生ト稱リ西洋醫學ヲ學ブ	
同六年愛則生ヲ廢ス依テ次年九月正則生ト為ル	
同七年十月文部省官費生ト為ル	
同十年内務省官費生ト為ル	
同十三年大銀氏ノ女ヲ娶リテ妻ト為ス親子ト稱ス	
同十四年春一女子ヲ揚グたま子ト名ク	
同年十月愛知縣ニ招聘ニ應ジ名古屋ニ來ル	
同年同月十九日愛知縣學校ニ考敎諭ニ任ゼラレ解剖及ビ生理ノ二	

図1 公私履歴書（第1丁表裏）

2) 卒業證書・明治14；枝番号 No.003, 図2

この明治14年東京大学医学部卒業組は森鷗外の同期として有名である。ここでは小関恒雄氏の論文⁴⁾を下に簡単に紹介する。

全28名の内訳は、出自では士族20人、平民8人。年齢は最年少の鷗外が19歳、最年長が32歳。大半が23～26歳であるから、28歳の奈良坂はやや年長の部類に属する。彼らのその後の経歴をみると、海外留学経験者が15名。東大等の大学人が3人、侍医が4人、軍医として栄達した者8人、中央衛生会1人、開業医6人である。留学や中央志向もなく、地方の医学校で解剖学教育に挺身した奈良坂は特異な存在である。

ちなみに、著名な同期生の何名かを挙げると、三浦守治（東大病理学）、中浜東一郎（中央衛生会）、佐藤佐（順天堂）、森林太郎（医務局長、作家）、小池正直（軍医総監）、熊谷幸之輔（愛知医学校長）、賀古鶴所（軍医監）など明治中後期の医学会を領導した面々である。

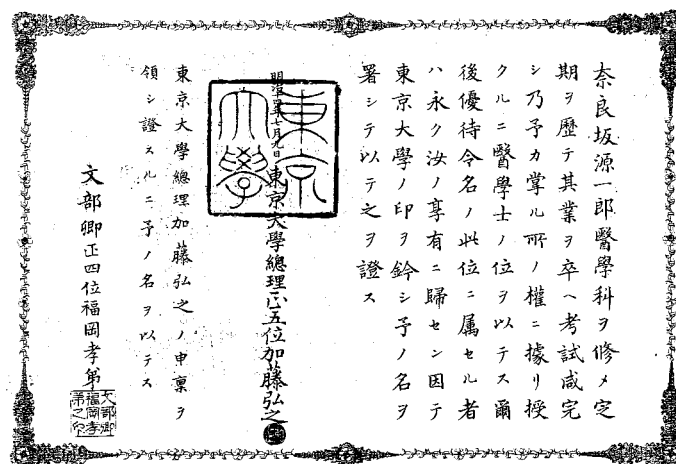


図2 卒業證書

Ⅱ 愛知医学校教諭，解剖学者として

3) 辞令月俸 120 円・明治 14；枝番号 No.005.

お雇い外国人を順次日本人に換えるとの政府の方針を受け，愛知医学校では明治 13 年にローレツの後任として東京大学学士・鈴木孝之助が，この 14 年に奈良坂，次いで熊谷幸之輔，翌 15 年に小倉開治が赴任することになる．当時愛知病院校長であった後藤新平は月俸 60 円であった．大学医学部卒学士の月俸は 120 円．初代の外国人教師ヨンゲハンスの月給は横浜銀で 400 ドル，ローレツは 300 円であった．

ちなみに，当時の 1 日の労賃が一般に 20 銭程度，月額にして 5 円内外であった⁵⁾．現在の価格に換算してみると当時の 1 円が 26,700 円として，320 万円となる⁶⁾．大学出の初任給としてみると医学部卒学士が如何に厚遇であったかが分かる．

4) 『解剖大全』版權免許之證・明治 16；枝番号 No.013，図 3

奈良坂が大学卒業間もなく刊行したこの『解剖大全』は近代的解剖学教科書の嚆矢とされる．3 巻，全 2,109 頁，名古屋新聞社発行である．続いて『簡明組織学』（同 21 年），『解剖簡明』（同 27 年），『簡明胎生学』（同 28 年），『局処解剖学講本』（同 35 年），『局処解剖学図譜』（同 36 年），『新撰中庸組織学』（同 36 年）と陸続と解剖学関連の教科書を出版していく．

明治初期，欧米の解剖書を部分的に翻訳することから始まる我国の解剖学書であるが，明治 14 年，田口和美の『解剖攬要』で本格的解剖書の出版といわれる．しかし，その不備を補い現代に通じるものとして評価されるのが，この『解剖大全』である．彼の系統的で自らの知見も加えた教科書が次々と刊行されていく様子は当時の解剖学者のなかでもひと際異彩を放っている⁷⁾．



図 3 『解剖大全』版權免許之證

5) 愛衆社社員之證・明治 19；枝番号 No.025，図 4

愛衆社は後藤新平が院校長の明治 13 年に，院校の有志と諮り設立した我国初の私立衛生団体である．医師会と私立衛生会の役割を併せ持っていた．幅広い賛同者や機関誌『四季医報』等により東海地区での積極的な医事衛生の活動を行っていた．この後，明治 16 年に大日本私立衛生会の設立で内容事務の一切をその愛知県支部に移す⁸⁾．しかも同年，後藤が内務省衛生局に引き抜かれ，かつ趣意の拡張として医学予備教育のための「愛衆学校」となり，東大学士教諭が 4 人以上という甲種医学校（卒

業で医師免許取得）として人気の高かった愛知医学校への予備校化していく。明治26年の生徒募集を最後に閉校の時期は不明である⁹⁾。

奈良坂がこの社員となった19年は「愛衆学校」と称されていた時期である。入社が何故この時期になったのかは分からないが、基礎医学や博物学、生物学の教育上欠かせない存在であったと思われる。この副長・川原汎は奈良坂の東大での2級後輩、内科医長、学究としても令名の高い人物である。

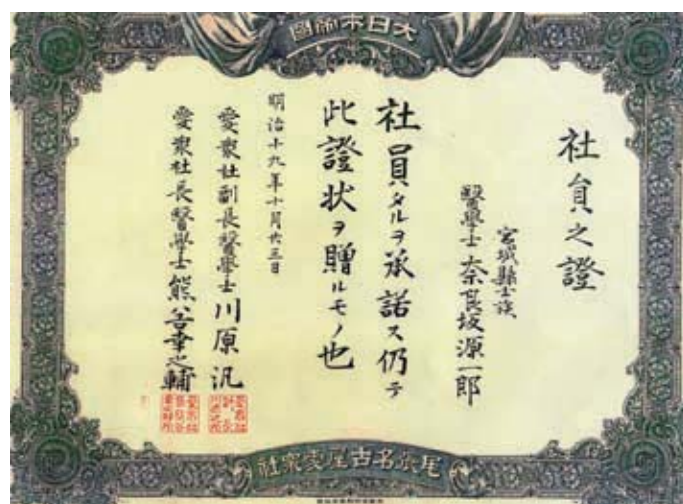


図4 愛衆社社員之證

Ⅲ 解剖学の背景

6) 同好社特別社員之證・明治16；枝番号 No.011，図5

同好社は尾張藩以来の中京画壇四条派の奥村石蘭を社長に、葦原眉山らにより流派に囚われない美術団体として明治16年に結成された。社員には『尾張名所図会』でも有名な小田切春江や『凶荒図録』の木村金秋等がいた¹⁰⁾。

この同好社は岡倉天心らの中央での日本美術再興運動に呼応したのかもしれないが、その後の活動は必ずしも明らかでない。奈良坂は幼少時に父親から鹿野家（狩野派の支流か、明治期奈良坂の郷里で活動した鹿野某がいる）画法の薫陶を受けており、この同好社の設立に当初から関心を持っていたのだろう。



図5 同好社特別社員之證

ちなみに、「愛知新聞」(明治16年4月7日)によると、「本日午後より同好社長…博物館に集会し第二回絵画研究会展覧優等の者を特別会員に選挙さるる由」との記事が見える。

奈良坂は終生絵をたしなみ、号を故郷の松島に因み「松洲」としていた。博物画としての『蟲魚図譜』の精緻さは昨年刊行の複製本で明らかである。解剖学者の眼で見る博物図としての秀逸さばかりでなく、一幅の絵画としての空間構成を『定本源一郎伝』で滝口昭二氏は賞賛しているが、その下地は幼少時からの狩野派の画法修練にあったのだろう。

奈良坂が様々な機会に多くの絵を画いたことは回顧談等に散見するが、現存や確認されるものは少ない。わずかに医学図書館所蔵の3点や係累で所蔵されているもの、『関西医界時報』に掲載された数点が知られるのみで、今後関係者の所蔵分等の調査が待たれる。

7) 松月堂古流免許・明治17; 枝番号 No.018, 図6

奈良坂が華道を修行したという形跡は、「公私履歴書」からも門人たちの回顧談からも伺うことはできない。しかも、『宮城県史』や『仙台市史』からも当地における華道の歴史は詳らかでない。従って、この免許にある「陸前一国総会頭」の内実を明らかに出来ないが、名古屋と華道「松月堂古流」の関係及び遺品中の華道書から奈良坂と生け花について簡単に記す。

生け花で名古屋に最も早く現われた流派は松月堂古流であり、幕末の頃には本家の京都に対抗するほどに勢力を伸ばし、明治13、14年に再復興の時期を迎えたという¹¹⁾。名古屋と生け花の関係は尾張本草学との対比として想定されるが、特にこの松月堂古流との関連では流祖・是心軒一露の思想が当時の本草学、特に平賀源内や物産会から影響を受けていること、草木の自然界の状態を花器に移すに際しての姿勢が本草学の自然観察・認識と呼応している等を述べた岩崎鐵志論文¹²⁾を参照されたい。

奈良坂史料中の華道書で松月堂古流の書と思われる以下の書籍がある。

雌雄軒撰著;『葉物集』『四季骨体卓下活法画譜』,

『花菖蒲瓶花譜』,『燕子花瓶花譜』,『自製瓶花画譜』等

これらが奈良坂の著作なのか手写本であるのかはまだ判断できないが、生け花との係わりが先の『蟲魚図譜』の観察眼と無縁であったとは思えない。

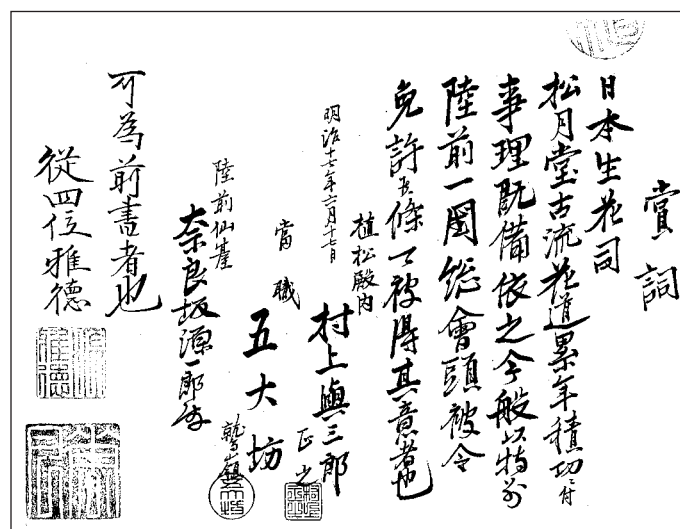


図6 松月堂古流免許

Ⅳ 医の人として

奈良坂は医術開業を明治 17 年に許可されているが、具体的医者の姿は不明である。ここでは梅毒と濃尾大地震との関係で簡単な紹介をする。

8) 駆梅医長・明治 20；枝番号 No.027,

対外的に国民病とさえ見なされた、梅毒への対策は明治新政府にとって重要な課題であった。明治 4 年に遊郭の新規開業禁止と梅毒洗除施設の通達が出され、9 年の内務省から娼妓梅毒検査施設の督励通達により全国的規模の娼妓検診が始まる。愛知県では明治 8 年に名古屋、熱田、岡崎、豊橋に検検所が設置され、愛知病院（医学校）に属させる。名古屋、熱田の検検所には蜂須賀謙吉、平出順良の医学校創設時来の医員の名がある（第 1 回の内務省年報・明治 9 年では検査所設置は 3 府 17 県、愛知は未設置になっている）。13 年にこれを名古屋駆梅院（大須門前町善篤寺内）等として独立させるが、20 年に名古屋、岡崎、豊橋の各駆梅院の管理を再び愛知病院に属させている。再び切り離されるのは明治 22 年である¹³⁾。

駆梅院長は愛知病院長の兼務であり、奈良坂は病院でなく医学校所属であるがこの医長という地位にあった。当時の患者は明治 8 年の愛知病院で外来 237 人、同 14 年には受検者が 26,800 人、入院患者が 4,200 人、20 年にはそれぞれ 39,000 人、1,450 人という数字を『名古屋市史』は記している¹⁴⁾。

9) 震災被害者救恤感謝状・明治 26；資料枝番号 No.052.

これは明治 24 年の濃尾大地震救援資金提供への感謝状である。濃尾大地震はマグニチュード 8.0、我国最大の内陸型地震で死者 7,273 人、全壊家屋は 14 万もあった。当時、奈良坂は私立の愛知教育博物館を大須に建築中であった。2 階建ての陳列館や外国語学校からの外国教師館移築中に倒壊したという。開館は 1 年遅れとなる。この博物館は奈良坂を中心とした有志や一般からの義捐金による建設で、彼の負担は多大であったと思われる¹⁵⁾。

このようななかで、彼の震災義捐金 10 円（現在の 20 万円）提供である。これ以外にも彼の履歴を見ると、各地の暴風や水害、凶作や噴火などへの義捐活動の跡をみることができる。他に、育児院や盲人会等からの感謝状もあり、彼の社会活動・社会福祉への意識を垣間見る思いである。

ところで濃尾大地震と愛知医学校の関係では、解剖局の大破等の被害甚大な中での救援は学生をも投入した精力的な活動であった。しかし、この頃の『院校報告』では活動報告は略述であり、具体的な救援体制等は分からず、奈良坂の活動内容も不明である。

Ⅴ 奈良坂の顕彰

この履歴関係資料リストには、多くの感謝状が見えるが、ここでは顕彰 2 点を取り上げることにする。

10) 25 年勤続表彰・明治 39；枝番号 No.100, 図 7（絵葉書）

勤続 25 年の表彰は、学校長の熊谷とともに受けている。明治 14 年以来、熊谷は外科の臨床家として病院長や学校長として運営・経営の面を、奈良坂は基礎医学の教育面を中心に、東北出身の両者が相俟って医学校、医学専門学校を築き上げてきたといえる。

この表彰・頌徳会が 10 月 20 日に医専同窓会と公職者有志により県会議事堂で開かれ、同窓会から校旗一流が贈呈、式後東陽館で祝宴が開催された。

標記の絵葉書はこの 25 年勤続表彰を記念して、医学専門学校同窓会で作成されたものである（熊

谷のものもある)。絵葉書収集の趣味があり、大量の写真も残している奈良坂であるが、この絵葉書はその中には見当たらず医学図書館所蔵のものを借用した。

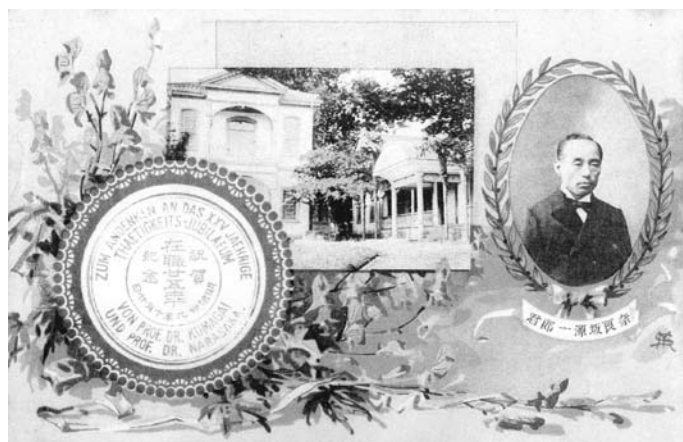


図7 25年勤続表彰（絵葉書）

11) 解剖学会名誉会員推戴・昭和5；枝番号 No.162,

解剖学会は、わが国最初の基礎医学の学会として明治26年に創設される。創設メンバー10数名の一人に奈良坂も加わっているが、初回に不参加であるばかりか、その後も欠席のときが多い。しかも、学会での演題発表の形跡も見当たらず（標本示説を第9回でみるのみ）、必ずしも熱心な会員とは言えなかったのかもしれない。かつては学会の四天王と称えられながら、最近まで忘れられた存在であったのもそのような経過によるのだろうか。しかし、奈良坂が解剖学会における偉大な存在であったことはこの名誉会員への推戴で明らかである。この最初の名誉会員に推挙されたのが、奈良坂以外は小金井良精（東大）、金子治郎（阪大）の二人で、創設以来の主要メンバーである¹⁶⁾。

Ⅵ 履歴の影に

先の1)「公私履歴書」に書かれていて、履歴関係資料リストに収録されていない事項に以下のようなのがある。但し1)の図版部分は除く。

- 1, 明治16年4月10日；今ヨリ月俸130円ヲ給セラル
- 2, 明治17年5月1日；737号ヲ以テ医籍ニ登録セラル
- 3, 明治19年2月23日；長女ヲ失フ
- 4, 明治19年夏；実弟之第三女春を迎ヒテ養フ此年二女出生ス
- 5, 明治21年4月；二女亦逝ク諡シテ花顔妙姿童女ト云フ
- 6, 明治22年12月27日；職務格別勉勵ニ付金35円賞与セラル
- 7, 明治23年5月27日；嚴君腸質扶斯ノ為ニ遠逝セラル
- 8, 明治28年11月；郷里ノ家屋灰燼ニ属ス
- 9, 明治28年12月26日；職務格別勉勵候ニ付金40円賞与セラル
- 10, 明治29年3月15日；妻肺患ノ為ニ逝ク享年49歳
- 11, 明治30年2月13日；尾州藩士加藤吉啓ノ末女（せむ子）ヲ後妻トス
- 12, 明治30年3月；郷里之家屋再築之工事ヲ興ス
- 13, 明治32年3月28日；愛知医学校生徒一同及ビ愛知病院在職卒業生一同ヨリ頌徳ノ表トシテ銀盃

三ツ組 1 箱ヲ送ラル

- 14, 明治 34 年 11 月 4 日；旧愛知教育博物館幹事諸氏ヨリ記念物トシテ黄銅製ノ火鉢手炉一対ヲ送ラル
- 15, 明治 35 年 9 月 12 日；実弟源太夫死去ス
- 16, 明治 37 年 5 月 26 日；妻せゐヲ離婚ス
- 17, 明治 39 年 10 月 20 日；在職 25 年ニ達シ愛知医学専門学校同窓会並ニ公職諸有志之頌徳会ヲ県会議事堂ニ開クニ望ミ同窓会通常会員ヨリ校旗一流ヲ送ラル是ヲ直チニ我項に献ズ右式了テ東陽館ノ祝宴ニ招待セラル
- 18, 明治 41 年 1 月；去ル 39 年 10 月在職 25 年ヲ祝シテ有志者ヨリ送ラルル所ノ奨学資金 1,070 円ヲ医費奨学資金として献ス
- 19, 明治 41 年 3 月 14 日；母公病死
- 20, 明治 42 年 8 月 27 日；叔父君病没セラル
- 21, 明治 42 年 11 月 26 日；去ル 40 年 10 月校旗ヲ寄附シタル廉ニテ三ツ組木杯 1 箱ヲ賞賜セラル
内閣賞勲局
- 22, 明治 43 年 4 月 19 日；辞令書 1 通及大銀杯 1 個下賜セラル 賞勲局
右ハ去ル 41 年中愛知医学専門学校奨学資金トシテ金 1,070 円ヲ寄附シタルニ因ル
- 23, 明治 43 年 8 月；旧山形藩士小田切俊氏ノ遺女光子ヲ娶リテ継妻トス
- 24, 明治 43 年 12 月 29 日；勲六等ニ叙シ瑞宝章ヲ下賜セラル 賞勲局
- 25, 明治 43 年 12 月 29 日；勲六等ニ叙シ瑞宝章ヲ下賜セラル
- 26, 大正 5 年 3 月 9 日；御大礼記念章ヲ賜ハル
- 27, 大正 8 年 4 月 2 日；辞表ヲ提出ス
- 28, 同月 18 日；在名同窓会ノ留任勧告ニ抛リ辞意ヲ翻ス
- 29, 大正 11 年 10 月；源二夫婦ヲ夫婦養子トナス
- 30, 大正 12 年 3 月；源二ノ栃木在職ヲ辞セシメ本人ノ希望ニ因リ東洋大学ニ入テ文学ヲ修メシム
- 31, 昭和 5 年 3 月 11 日；鶴天学友会ヨリ喜寿之佳宴ヲ開カル来会者無慮 150 名外ニ賛助者 288 名
- 32, 昭和 5 年 4 月；賞勲局ヨリ御大礼記念章ヲ下賜セラル

おわりに

昭和の末頃、ご縁で奈良坂源次郎氏と巡り合い、爾来奈良坂源一郎伝出版のお手伝いをさせて頂いてきた。今回源一郎資料が奈良坂宏氏から寄贈されることになり、その資料整理の一員として博物館研究協力者として参加させて頂いていることに感謝している。奈良坂源一郎の人物像や功績の再評価等に役立つ資料整理に、微力でも貢献できたら幸いだと思っている。

本稿作成にあたっては、名古屋大学博物館の西川輝昭先生に様々なご助言を頂き成稿に至った。いうまでもなく個別内容の責任は筆者にあるが、改めてお礼申し上げます。

注 記

- 1) 名古屋大学博物館（編）（2005）奈良坂源一郎蟲魚図譜，名古屋大学医学部第一外科同心会。
- 2) 西川輝昭（2005）愛知教育博物館関係史料の紹介と解説（その 1），名古屋大学博物館報告，**21**，173-182。
- 3) 奈良坂源次郎（2004）完本解剖学者奈良坂源一郎伝，自費出版，船橋

- 4) 小関恒雄 (1990) 明治初期東京大学医学部卒業生動静一覧 (2), 日本医史学雑誌, **36(3)**, 229-247.
- 5) 日本統計協会 (編) (1988) 日本長期統計総覧 第4巻, 「職種別平均賃金」より推計.
- 6) <荷風塾> http://homepage.mac.com/naoyuki_hashimoto/kafu_nenpyo.htm
- 7) 島田和幸 (2004) 明治期の解剖学書－系統だった最初の解剖学教科書について－, 形態科学, **8**, 1-4.
- 8) 鶴見祐輔 (1965) 後藤新平 1, 勁草書房, 263-269.
- 9) 田中礼蔵・築瀬政雄 (1969) 明治中期における愛知県中等教育, 愛知県科学教育センター研究紀要, 39, 「明治 20 ～ 32 年名古屋市内私塾一覧」による.
- 10) 服部徳次郎 (1974) 図説中京書家画人考, 名古屋市教育委員会.
- 11) 海野弘 (2002) 華術師の伝説, アーツアンドクラフツ.
- 12) [岩崎鐵志] (1991) 3・事例的研究「立花・生花」について, In: 静岡県史 資料編 15 (近世7), 静岡県編, 1081-1095.
- 13) 愛知医学校 (1880, 1890) 愛知県公立病院及医学校第一報告, 愛知医学校及愛知病院第五報告.
- 14) 名古屋市役所 (編) (1930) 名古屋市史 政治編第3, 570-572.
- 15) 岡田善敏 (1949) 名古屋に於ける生物学進歩の足跡, 郷土文化 **4(1)**, 4-12.
- 16) 日本解剖学会百周年記念事業実行委員会ほか (編) (1995) 日本解剖学会百年のあゆみ, 日本解剖学会.

(2006 年 10 月 30 日受付)

履歴関係資料リスト (Ln-01)

枝番号	種別	年 月 日	発 信 者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
001	履歴書		奈良坂源一郎		公私履歴書〔冒頭〕安政元年六月十五日陸奥國（今之陸前國也）仙台桃生郡矢本ノ村ニ生ル…〔最終〕昭和五年四月解剖学会ヨリ同会名誉会員ニ推サル	27 × 19、11 丁	
002	卒業証	明治 14 年 7 月 4 日	池田謙斎	東京大学医学部総理	医学卒業候事 卒業試験全成績 試業委員 東京大学医学部教授 ドクトル・ウイヘル・ムシユルツ、ドクトル・エルウィン・ペルツ、ドクトル・アレクサンデル・ランガルト、ドクトル・プロフエスソル・エルンスト・チーゲル、ドクトル・ヨゼフ・ザスセ	34 × 46	宮城県土族奈良坂源一郎、履歴書に無し
003	卒業証	明治 14 年 7 月 9 日	加藤弘之	東京大学総理正五位	奈良坂源一郎医学科ヲ修メ定期ヲ歴テ其業ヲ卒ヘ考試咸定シ乃予カ掌ル所ノ権ニ拠リ授クルニ医学士ノ位ヲ以テス爾後優待令名ノ此位ニ属セラル者ハ永ク汝ノ享有ニ帰セン因テ東京大学ノ印ヲ鈐シ予ノ名ヲ署シテ以テ之ヲ證ス〔後記〕東京大学総理加藤弘之ノ申稟ヲ領シ證スルニ予ノ名ヲ以テス 文部卿正四位福岡孝弟	38 × 53	履歴書に無し
004	辞令類	明治 14 年 10 月 19 日	野村賀真	愛知県少書記官正七位	任愛知医学校一等教諭〔野村・・・奉〕	22 × 27	
005	辞令類	明治 14 年 10 月 19 日	愛知県		月俸金百貳拾圓給與候事	20 × 27	
006	辞令類	明治 14 年 10 月 26 日	愛知醫学校		解剖学生理学分擔申付候事	19 × 26	
007	辞令類	明治 14 年 10 月 27 日	愛知醫学校		組織学分擔申付候事	19 × 26	
008	辞令類	明治 15 年 5 月 18 日	愛知醫学校		解剖学組織学局所解剖学分擔申付候事	19 × 26	
009	辞令類	明治 15 年 9 月 1 日	愛知醫学校		局所解剖学分擔申付事	19 × 26	
010	辞令類	明治 15 年 12 月 26 日	愛知県		職務勉勵候二付金四拾圓給與候事	20 × 26	
011	会員証	明治 16 年 4 月	同好社		特別社員之證 第五十八号 一 五株 奈良坂源一郎殿 本社ヲ維持スル為メ上件ノ株主トナル故ニ此ノ證券ヲ付与スル者也	20 × 26	履歴書に無し
012	辞令類	明治 16 年 4 月 10 日	愛知県		自今為手當毎月金拾圓宛給與候事	20 × 26	履歴書に無し
013	辞令類	明治 16 年 6 月 15 日	山田顯義	内務卿	第壹萬壹千貳百七拾號 板權免許之證 奈良坂源一郎編輯 解剖大全 中本三冊 右者明治十六年六月十五日ヨリ向三十年ノ間板權免許候也	21 × 28	履歴書に無し
014	開業願	明治 16 年 12 月	〔宛先〕 国貞兼平殿、野村賀真殿	愛知県令 県令代理	医術開業願 私議今般名古屋区南園町二丁目六番地ニ於テ諸科医術開業仕度候間開業免状御下附被下度依之東京大学医学部ノ医学卒業証書並ニ履歴書相添此段奉願候也〔後記朱書〕書面願之趣聞届医術開業免状下渡候事 明治十七年二月五日 愛知県令国貞兼平	30 × 40	履歴書に無し
015	辞令類	明治 16 年 12 月 26 日	愛知県		職務勉勵候二付為手當金四拾圓給與候事	20 × 26	

枝番号	種別	年 月 日	発 信 者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
016	辞令類	明治 17 年	内務省		明治十七年第一回名古屋醫術開業試験委員勤務二付為 慰労目録之通給與候事	23 × 32	履歴書に無し
017	辞令類	明治 17 年 4 月 8 日	内務省		明治十七年第一回名古屋醫術開業試験委員申付候事	23 × 32	
018	免許証	明治 17 年 6 月 17 日	村上興三郎正之、 鷲嶺	植松殿内 當職五大坊	賞詞 日本生花司 松月堂古流花道累年積功ニ付事理 既備依之今般以特例陸前一国総会頭被令免許候條可被 得其意者也 [後記] 可為前書者也 従四位雅徳	36 × 50	包紙に「証状」履歴書に 無し
019	辞令類	明治 17 年 12 月 24 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付為手當金四拾圓給與候事	20 × 26	履歴書に無し
020	辞令類	明治 18 年 8 月 21 日	内務省		明治十八年第二回名古屋醫術開業試験委員申付候事	23 × 31	
021	辞令類	明治 18 年 10 月 4 日	内務省		明治十八年第二回名古屋醫術開業試験委員勤務二付為 慰労目録之通給與候事	23 × 31	履歴書に無し
022	辞令類	明治 19 年 5 月 3 日	愛知醫学校		明治十九年第一回入學試験委員申付候事	20 × 27	履歴書に無し
023	辞令類	明治 19 年 9 年	内務省		明治十九年第二回名古屋醫術開業試験委員勤務二付為 手當目録之通給與	23 × 31	履歴書に無し
024	辞令類	明治 19 年 9 月 14 日	内務省		明治十九年第二回名古屋醫術開業試験委員申付候事	23 × 31	
025	會員証	明治 19 年 10 月 23 日	川原汎、 熊谷幸之輔	愛衆社副長医学士、 愛衆社長医学士	社員之證 宮城県士族医学士奈良坂源一郎 社員タル ヲ承諾ス仍テ此證状ヲ贈ルモノ也	37 × 45	履歴書に無し
026	辞令類	明治 19 年 12 月 28 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付為手當金三拾五圓ヲ給ス	20 × 26	
027	辞令類	明治 20 年 1 月 24 日	愛知縣		名古屋驪棧院醫長兼務ヲ給ス	23 × 31	
028	辞令類	明治 20 年 3 月 10 日	内務省		明治廿年第一回金澤醫術開業試験委員申付	23 × 31	
029	辞令類	明治 20 年 3 月 12 日	愛知縣		任愛知縣愛知醫學校教諭	23 × 31	
030	辞令類	明治 20 年 3 月 12 日	愛知縣		名古屋驪棧院醫長兼務ヲ命ス	23 × 31	
031	辞令類	明治 20 年 3 月 12 日	愛知縣		月俸百貳拾圓ヲ給ス	23 × 31	
032	辞令類	明治 20 年 3 月 12 日	愛知縣		手當トシテ毎月金拾圓ヲ給ス	20 × 26	履歴書に無し
033	辞令類	明治 20 年 3 月 27 日	内務省		明治廿年第一回金澤醫術開業試験委員勤務ニ付為手當 目録之通給與	23 × 31	履歴書に無し
034	辞令類	明治 20 年 9 月 16 日	愛知縣		知多郡醫師組合總會ニ付出張ヲ命ス	20 × 26	
035	辞令類	明治 20 年 12 月 28 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付其賞トシテ金五拾圓ヲ給ス	20 × 27	
036	委嘱状	明治 21 年 1 月	大窪實	愛知教育會長	本會理學部委員ヲ依託ス	20 × 27	履歴書に無し
037	辞令類	明治 21 年 4 月 17 日	愛知縣		愛知驪棧院醫長兼務ヲ命ス	23 × 31	履歴書に無し
038	辞令類	明治 21 年 4 月 24 日	内務省		明治廿一年第一回金澤醫術開業試験委員申付	23 × 31	
039	辞令類	明治 21 年 5 月 5 日	内務省		明治廿一年第一回金澤醫術開業試験委員勤務ニ付為手 當目録之通給與	23 × 31	
040	辞令類	明治 21 年 9 月 25 日	愛知縣		教育品展覽會審査委員ヲ命ス	20 × 26	

枝番号	種別	年月日	発信者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
041	辞令類	明治21年12月27日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付為金四拾圓ヲ賞與ス	20 × 27	
042	辞令類	明治22年12月27日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金三拾五圓賞與ス	20 × 27	
043	辞令類	明治22年12月3日	愛知醫學校		明治廿二年第二回入學試験委員ニ命ス	18 × 25	
044	辞令類	明治22年12月5日	勝間田稔	愛知縣知事	明治二十二年十二月五日付願授業上取調ノ義ニ付上京ノ件允許ス 愛知県指令衛 3 第 1460 号	28 × 20、罫紙	履歴書に無し
045	辞令類	明治23年6月14日	愛知縣		除服仕ヲ命ス	20 × 27	
046	感謝状	明治24年8月6日	岩村高俊	愛知縣知事從三位勲三等	愛知醫學校へ川原汎外七名共同短艇三艘寄付候仮奇特ニ付為其賞木盃壹個下賜候事	23 × 31	
047	辞令類	明治24年12月24日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金四拾圓賞與ス	20 × 26	
048	感謝状	明治25年7月20日	千田貞暁	愛知縣知事從四位勲四等	明治二十二年九月當縣下暴風海嘯ノ為メ被害者救恤トシテ金四圓惠與候仮奇特ニ候事	23 × 31	
049	辞令類	明治25年12月24日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金三拾五圓ヲ賞與ス	23 × 31	
050	辞令類	明治26年11月30日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金四拾圓賞與ス	22 × 29	
051	辞令類	明治26年12月7日	愛知縣		医学校事務取調トシテ上京ヲ命ス	22 × 29	
052	感謝状	明治26年12月20日	時任為基	愛知縣知事正四位勲三等	明治廿四年當縣下震災被害者救恤トシテ金拾圓惠與候仮奇特ニ付為其賞木盃壹個下賜候事	23 × 31	履歴書に無し
053	辞令類	明治28年5月11日	愛知縣		自今月俸金百四拾圓ヲ給ス	23 × 31	履歴書に無し
054	辞令類	明治28年10月14日	時任為基	愛知縣知事	明治廿八年九月十四日附願ヨッセル氏局所解剖學部出願愛知医學校へ寄附之件許可ス 愛知県指令 3 第 8433 号	24 × 17、罫紙	履歴書に無し
055	辞令類	明治28年11月28日	時任為基	愛知縣知事正四位勲三等	明治廿八年十月愛知醫學校へヨッセル氏局所解剖學部寄附シタルハ奇特トス仍チ為其賞木盃壹個下賜ス	23 × 31	
056	辞令類	明治29年3月25日	愛知縣		除服出仕	29 × 20、県辞令用紙	履歴書に無し
057	辞令類	明治29年4月7日	愛知縣		自今月俸金百五拾圓給與	23 × 31	
058	會員証	明治29年9月5日	花房義質	神苑會々頭從三位勲一等男爵	證 一金拾圓也右本會設立ノ主旨ヲ賛成セラレ書面ノ金員御寄附相成候段領承本會規制ニ照シ事業擴張ノ資ニ供スヘク候依テ總裁威仁親王殿下ノ令旨ヲ奉シ會員證牌及御交付候也	22 × 29	履歴書に無し
059	辞令類	明治29年12月26日	愛知縣	職務格別勉勵ニ付金四拾圓ヲ賞與ス		s28 × 21、県辞令用紙	
060	辞令類	明治30年5月27日	農商務省		愛知外四縣五二會聯合品評會出品醫療器械眼鏡教育用品審査官ヲ囑託ス	28 × 20、農商務省罫紙	履歴書に無し

枝番号	種別	年 月 日	発 信 者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
061	感謝状	明治30年6月10日	大給恒	賞勲局總裁正三位勲一等子爵	亡妻かね明治二十七八年戦後ノ際有志共同軍用品獻納候段奇特ニ候事	23 × 31	履歴書に無し
062	辞令類	明治30年7月10日	愛知縣		年俸金千八百圓ヲ給ス	23 × 31	
063	辞令類	明治30年7月26日	松方正義	内閣總理大臣正二位勲一等伯爵	任愛知縣愛知醫學學校教諭 [松方・・・宣]	23 × 31	
064	辞令類	明治30年7月28日	知事官房		別紙縣令御送付及候条請書御呈回之有之度候也	25 × 17、県罫紙	履歴書に無し
065	辞令類	明治30年12月23日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金六拾圓ヲ賞與ス	29 × 21、 県辞令用紙	履歴書に無し
066	辞令類	明治31年12月21日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金六拾圓ヲ賞與ス	28 × 20、 県辞令用紙	
067	感謝状	明治32年	聯合區内総代	名古屋市三藏尋常小学校	拝啓陳者今般三藏尋常小学校新築落成ニ付開校祝賀費並ニ學事奨勵基金として金參圓御寄附相成正ニ領収斯道之為め御奇特之段感謝ニ不堪候此段御挨拶旁如此ニ候敬具	20 × 26	履歴書に無し
068	辞令類	明治32年4月22日	愛知縣		年俸貳千圓下賜	23 × 31	
069	辞令類	明治32年5月3日	愛知縣		第三高等學校及大坂醫學學校へ出張ヲ命ス	28 × 20、 県辞令用紙用紙	
070	辞令類	明治32年12月20日	愛知縣		職務勉勵ニ付金七拾圓賞与ス	27 × 19、県罫紙	履歴書に無し
071	辞令類	明治32年12月27日	愛知縣		愛知醫學學校監事兼務ヲ命ス	28 × 20、 県辞令用紙	
072	辞令類	明治32年12月27日	愛知縣		年俸貳千參百圓下賜	23 × 31	履歴書に無し
073	辞令類	明治33年1月14日	愛知縣		上京ヲ命ス	27 × 19	履歴書に無し
074	感謝状	明治33年5月1日	大本山永平寺		今般 宗祖承陽大師六百五十回大遠忌管弁及仏殿僧堂等造営ニ付き報恩謝徳ノ為メ淨財ヲ喜捨セラレ候段洵ニ奇特ノ至リトス依テ茲ニ賞詞ニ及ヒ候也	23 × 30	
075	辞令類	明治33年12月27日	愛知縣		職務勉勵ニ付金七拾五圓ヲ賞与ス	28 × 20	
076	辞令類	明治34年3月22日	愛知縣		京都府へ出張ヲ命ス	27 × 20	
077	委嘱状	明治34年3月29日	黒川通軌	日本體育會長從三位勲一等男爵	總裁大勲位載仁親王殿下ノ旨ヲ奉シ奈良坂源一郎君ニ日本體育會愛知縣委員ヲ囑託ス	23 × 31	
078	辞令類	明治34年4月24日	愛知縣		年俸貳千四百圓下賜	23 × 31	
079	辞令類	明治34年6月7日	愛知縣		依頼愛知醫學學校監事兼務ヲ免ス	23 × 31	
080	辞令類	明治34年9月20日	田中光顯	宮内大臣從二位勲一等子爵	叙從六位 [田中・・・宣]	23 × 31	
081	辞令類	明治34年12月25日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金八拾圓ヲ賞与ス	27 × 20	

枝番号	種別	年 月 日	発 信 者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
082	感謝状	明治 35 年 2 月 24 日	大本山永平寺大遠忌事務局		特第七一号 領収証 一金七円也 右は高祖承陽大師六百十回大遠忌営弁に付仏殿僧堂庫院等新築費並に書堂宇大修繕費其他御遠忌営弁準備の費用として報恩謝徳の為め篤志の御寄付被成下辱く領収致候也	21 × 32	履歴書に無し
083	辞令類	明治 35 年 3 月 31 日	愛知縣		上京ヲ命ス	27 × 20	履歴書に無し
084	辞令類	明治 35 年 9 月 30 日	愛知縣立醫學校		除服出仕ヲ命ス	20 × 26	履歴書に無し
088	辞令類	明治 36 年 12 月 21 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金八拾五圓賞與ス	27 × 20	
089	辞令類	明治 37 年 4 月 25 日	愛知縣		一級下賜	23 × 31	
090	感謝状	明治 37 年 8 月 17 日	大原重明	軍人遺族救護義会副会長正三位伯爵	爰ニ下堀川町奈良坂源一郎氏本会ノ主旨ヲ翼賛シ金壹円ヲ寄贈セラル依テ其厚志ヲ深謝ス	22 × 27	履歴書に無し
091	辞令類	明治 37 年 12 月 23 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金八拾五圓賞與ス	27 × 20	
092	感謝状	明治 38 年 4 月 5 日	熊谷幸之輔	愛知縣立医学専門学校同窓会長	謹啓解剖簡明一冊解剖大全一部今回御寄贈被成下御厚情之儀奉感謝候受領仕候貴書ハ丁寧ニ保管致尚御芳名ヲ本会ノ記録ニ存シ永遠ニ伝ヘ可申先ハ謝辞申上度如此御座候敬具	26 × 39	履歴書に無し
093	辞令類	明治 38 年 4 月 28 日	愛知縣		京都大阪二府へ出張ヲ命ス	27 × 20	
094	辞令類	明治 38 年 7 月 15 日	愛知縣立醫學専門學校		教務部長兼務ヲ命ス	2 0 × 2 6	
095	感謝状	明治 38 年 8 月 21 日	深野一三	愛知縣知事從四位勲三等	明治三十七七八年戰後ノ際恤兵費ノ内へ金貳圓八錢寄附候仮奇特ニ候事	23 × 31	履歴書に無し
096	辞令類	明治 38 年 9 月 30 日	田中光顯	宮内大臣從二位勲一等子爵	敘正六位 [田中・・・宣]	23 × 31	
097	辞令類	明治 38 年 12 月 22 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金八拾五圓賞與ス	28 × 20	
098	辞令類	明治 39 年 3 月 29 日	愛知縣		上京ヲ命ス	27 × 20	
099	辞令類	明治 39 年 12 月 24 日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金八拾五圓賞與ス	27 × 20	
100	感謝状	明治 39 年 12 月 24 日	鈴木仙太郎	愛知縣會議長	愛知縣立医学専門学校教諭奈良坂源一郎君ハ明治十四年本県ニ赴任以來恪勤克ク其職ヲ奉シ二十五年一日ノ如ク銳意専心斯道ニ為ニ尽瘁セラレ其功績ノ大ナル斉シク県民ノ多トスル所ナリ因テ本会ノ議決ヲ経テ感謝ノ意ヲ表ス	20 × 79	
101	感謝状	明治 40 年 3 月	愛知育兒院		礼状 一道徳講五拾口 右ハ今回育兒養育費トシテ御加盟ニ成厚情之段感謝之至リニ候固テ御礼申陳有也	20 × 27	履歴書に無し
102	感謝状	明治 40 年 3 月 13 日	大給恒	賞勳局總裁從二位勲一等子爵	本年一月愛知縣立醫學専門學校備品校旗購入費金百貳圓餘寄附候段奇特ニ付為其賞木杯壹組下賜候事	23 × 31	履歴書に無し

枝番号	種別	年月日	発信者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
103	感謝状	明治40年5月16日	谷口長雄	私立熊本医学専門学校 長	一解剖簡明三冊 (四、五、六) 右本校エ御寄贈被下正 二拝受仕候先ハ御礼迄御座候敬具	28 × 20、罫紙	履歴書に無し
104	感謝状	明治40年5月25日	佐藤勤也	横井文庫主管	別記の書籍本文庫へ御寄贈相成正に領収御厚意深謝致 候即文庫に於て永く供すべく候敬具 御寄贈品目 一 新訂五版解剖簡明卷ノ五、六 二冊	26 × 22、切断	履歴書に無し
105	感謝状	明治40年6月20日	佐藤勤也	横井文庫主管	別記の書籍本文庫へ御寄贈相成正に領収御厚意深謝致 候即文庫に於て永く供すべく候敬具 御寄贈品目 新 訂五版解剖簡明卷ノ七	26 × 22、切断	履歴書に無し
106	感謝状	明治40年7月11日	佐藤勤也	横井文庫主管	別記の書籍本文庫へ御寄贈相成正に領収御厚意深謝致 候即文庫に於て永く供すべく候敬具 御寄贈品目 新 訂五版解剖簡明卷ノ八	26 × 22、切断	履歴書に無し
107	辞令類	明治40年11月19日	愛知縣		京都大坂二府へ出張ヲ命ス	28 × 20	
108	辞令類	明治40年12月23日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	28 × 20	
109	感謝状	明治40年12月24日	佐藤勤也	横井文庫主管	別記の書籍本文庫へ御寄贈相成正に領収御厚意深謝致 候即文庫に於て永く供すべく候敬具 [裏面] 御寄贈品 目 増補五版簡明胎生学 巻部	26 × 35	履歴書に無し
110	感謝状	明治40年12月25日	二条基弘、 島津忠亮	神武天皇御降誕大祭会ノ挙ヲ賛助シ金壹円ヲ寄 附セラル依テ其厚意ヲ表彰シ茲ニ謝状ヲ呈ス	27 × 36	履歴書に無し	
111	感謝状	明治41年2月1日	龜井英三郎、平岡 定太郎、笠井信一	宮城縣知事從四位勲二 等、福島縣知事正五位 勲四等、巖手縣知事正 五位勲四等	一金五圓 明治三十八年縣下凶作ノ際窮民ノ救恤トシ テ頭書之通寄附候段奇特ニ候事	23 × 31	
112	辞令類	明治41年3月31日	愛知縣		除服出仕ヲ命ス	27 × 20	
113	感謝状	明治41年4月24日	大給恒	賞勲局總裁從二位勲一 等伯爵	本年四月愛知縣立醫學專門學校生徒奨學資金トシテ金 壹千七拾圓寄附候段奇特ニ付為其賞銀杯壹箇下賜候事	23 × 31	履歴書に無し
114	辞令類	明治41年12月23日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	27 × 20	
115	感謝状	明治42年1月21日	深野一三	愛知縣知事正四位勲二 等	本縣立醫學專門學校へ奨學資金トシテ金參拾貳圓五拾 錢寄附候段奇特ニ付為其賞木杯壹箇下賜候事	23 × 31	
116	辞令類	明治42年3月18日	愛知縣		岡山縣へ出張ヲ命ス	27 × 20	履歴書に無し
117	辞令類	明治42年9月4日	愛知縣		除服出仕ヲ命ス	28 × 20	
118	辞令類	明治42年12月24日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	27 × 20	履歴書に無し
119	辞令類	明治43年2月5日	愛知縣		加俸年額參百圓下賜	23 × 31	
120	會員証	明治43年2月21日	加藤重三郎	名古屋開府三百年記念 會會長	今般貴下ヲ本会商議員ニ推挙致候間御承諾被下御尽力 相成度候也	21 × 58、 封筒共 履歴書に無し	

枝番号	種別	年 月 日	発 信 者	発信者肩書	内 容	形状 (縦×横) cm	備 考
121	委嘱状	明治43年3月1日	高橋要治郎	愛知教育会長	拝啓益々御清栄之段賀上候諸第十回関西府県聯合共進 会開会ヲ機トシ帝國教育大会及青年大会等相催スヘキ 計画ニ有之候就テハ貴下ニ該委員御委嘱申候間御承認 之上御尽力相願度此段得貴意候敬具 追テ接待係後担 任被下度此義モ併セテ御依頼申候	20 × 53	履歴書に無し
122	感謝状	明治43年3月30日	川島純幹	滋賀縣知事正五位勲四 等	一金參圓 明治四十年八月縣下震災ノ際罹災者救助ト シテ頭書ノ通施與候役奇特ニ候事	23 × 31	履歴書に無し
123	感謝状	明治43年8月20日	津田明巖	京都救済院長	感謝状 今般本院へ特ニ御同情を表セラレ金沓円也御 寄付相成候段感佩ノ至リニ堪ヘス候右ハ深厚ナル御賛 助ニ対シ茲ニ誠実ナル感謝ノ意ヲ表シ候也	19 × 27	履歴書に無し
124	辞令類	明治43年12月24日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	27 × 20	
125	辞令類	明治44年4月14日	愛知縣		加俸年額金五百圓下賜	23 × 31	
126	辞令類	明治44年12月11日	渡邊千秋	宮内大臣從二位勲一等 伯爵	叙從五位 [渡邊・・・宣]	23 × 31	
127	辞令類	明治44年12月25日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百圓賞與ス	27 × 20	
128	辞令類	大正1年12月25日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百貳拾五圓賞與ス	27 × 20	
129	會員証	大正2年2月28日	中央歌文会		会友證 会友番号第七四八 本会の規定に照し会友 に列す	20 × 28	履歴書に無し
130	辞令類	大正2年7月31日	愛知縣		加俸年額金八百圓下賜	23 × 31	
131	感謝状	大正2年8月10日	桂太郎	恩賜財団済生会会長正 二位大勳位功三級公爵	本会ノ事業ヲ翼賛シ金沓百九拾九円余ヲ寄贈セラル仍 テ總裁員愛親王殿下ノ御沙汰ニ依リ敬テ謝意ヲ表ス	22 × 31	履歴書に無し
132	感謝状	大正2年9月25日	名古屋盲人会		感謝状 一金沓拾円也 右本会事業ニ御同情ヲ寄セラ レ頭書之通御寄附被成下御厚情之段感佩之至リニ堪ヘ ス茲ニ謹而謝意ヲ表シ候也 大正二年九月二十五日 名古屋盲人会	19 × 52	包紙封筒共 履歴書に無し
133	招待状	大正2年11月12日	渡邊千秋	宮内大臣伯爵	特別大演習終了ノ後名古屋市ニ於テ催サルル宴会ニ可 被為召旨御沙汰候條來十七日午後二時三十分參入可有 之此段申入候也	19 × 14	菊御紋封筒入り 履歴書に無し
134	表彰状	大正2年11月15日	辻新次他	東京毎夕新聞社開催 十五年勤続表彰会会長 正三位勲一等男爵	表彰状 奈良坂源一郎殿 貴下ハ滿十五年以上同一ノ 業務ニ従事シ忠実恪勤一日ノ如ク専心励精復他ヲ顧ミ ス其篤行洵ニ一世ノ模範タリ茲ニ之ヲ表彰ス	27 × 35	履歴書に無し
135	辞令類	大正2年12月26日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百貳拾圓賞與ス	27 × 20	履歴書に無し
136	辞令類	大正3年12月25日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金百貳拾圓賞與ス	28 × 20	
137	辞令類	大正4年3月13日	愛知縣立醫學專門 學校		依願教務部長ヲ解ク	20 × 26	

枝番号	種別	年月日	発信者	発信者肩書	内容	形状(縦×横) cm	備考
138	辞令類	大正4年4月23日	大隈重信	内閣總理大臣伯爵	願ニ依リ本職ヲ免ス「大隈・・・宣」	23×31	履歴書に無し
139	辞令類	大正4年5月6日	愛知縣		愛知縣立醫學專門學校講師ヲ命ス 年手當金壹千五百圓ヲ給ス	27×20	履歴書に無し
140	辞令類	大正4年5月7日	愛知縣立醫學專門學校		胎生學及局處解剖授業擔當ヲ命ス	20×27	
163	推薦状	大正4年7月1日	熊谷幸之輔	愛知県立医学專門学校 交友会長	本会名誉会員ニ推薦ス	19×26	理事会決議通知、封書とも、履歴書に無し
141	辞令類	大正4年11月10日	正親町実正	賞勳局總裁從二位勲三等伯爵	大札記念章之證 從五位勲六等奈良坂源一郎 大正四年勅令第百五十四号ノ旨ニ依リ大札記念章ヲ授与セラ ル〔後記〕 此證ヲ勘査シ第五万七千四百七十四号ヲ以テ大札記念簿冊ニ記入ス 賞勳局書記官正五位勲四等藤井善言	33×42	履歴書に無し
142	感謝状	大正4年12月15日	俵孫一	北海道廳長官從四位勲三等	大正二年北海道外六縣凶作及同三年鹿兒島縣櫻島爆發ノ際罹災窮民ヘ金八圓餘賑恤候段奇特ニ候事	23×31	履歴書に無し
143	感謝状	大正4年12月20日	中島潮造	愛知県立医学專門学校 交友会図書部長	拝啓倍御隆昌慶賀此事ニ御座候 陳ハホルスタイン解剖書ヘルトウイヒ胎生學同胎生學摘要ライツ顕微鏡目録四冊 今般本会ヘ御寄贈被成下御厚情之段奏深謝候該書籍ハ鄭重ニ保管可致ハ勿論會員一般ノ閱覽ニ供シ尚御芳名ハ本会記録ニ載セ以テ永遠ニ伝ヘ可申候先ハ御挨拶旁々得貴意候 敬具	18×39	履歴書に無し
144	辞令類	大正4年12月23日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付慰勞トシテ金五拾圓ヲ給ス	27×20	
145	感謝状	大正5年9月7日	伊達邦宗	仙台育英会總裁	第七五号 感謝状 一金拾円也 本会ノ事業ヲ贊襄シテ前記ノ金額御寄贈ニ預リ感謝ノ至ニ堪ヘズ茲ニ厚ク謝詞申述候也	21×29	履歴書に無し
146	感謝状	大正5年9月27日	黒田三樹三	愛知県立医学專門学校 交友会図書部長	拝啓倍御隆昌慶賀此事ニ御座候 陳ハヨハネスロイونس動物學貳冊フライシマン動物學卷冊アウゲヘンセ字書卷冊ジイモノウィツ組織學卷冊 今般本会ヘ御寄贈被成下御厚情之段奏深謝候該書籍ハ鄭重ニ保管可致ハ勿論會員一般ノ閱覽ニ供シ尚御芳名ハ本会記録ニ載セ以テ永遠ニ伝ヘ可申候先ハ御挨拶旁々得貴意候 敬具	18×39	封筒共 履歴書に無し
147	辞令類	大正5年12月22日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金五拾圓賞與ス	27×20	履歴書に無し
148	感謝状	大正6年5月14日	大本山永平寺副寺		證 一金壹円也 右正ニ領収候也	20×26	履歴書に無し
149	辞令類	大正6年12月20日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金七拾圓賞與ス	27×19	
150	辞令類	大正7年12月20日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金七拾圓賞與	27×19	
151	辞令類	大正8年3月25日	愛知縣		四等級ヲ給ス	27×19	

枝番号	種別	年月日	発信者	発信者肩書	内容	形状(縦×横) cm	備考
152	辞令類	大正8年12月22日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付慰勞トシテ金壹百圓ヲ給ス	27 × 19	履歴書に無し
153	領収証	大正9年3月2日	梶川乾堂	大本山総持寺再建事務本部会計課長	證一金壹圓也 一口 大本山総持寺萬人講々金 右御納金相成正ニ領収仕候依テ当本山大調堂ニ於テ志趣ノ霊位ヲ賽志スルノ證トシテ領収證如斯候也	21 × 29	履歴書に無し
154	辞令類	大正9年12月23日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付慰勞トシテ金壹百圓ヲ給ス	27 × 20	
155	辞令類	大正10年4月29日	愛知縣		職務格別勉勵ニ付金千五百圓賞與	27 × 20	履歴書に無し
156	辞令類	大正10年4月30日	愛知縣		願ニ依リ本職ヲ解ク	27 × 20	
157	辞令類	大正10年6月2日	川口彦治	愛知縣知事	サンゴ類骨軸外八種 大正十年五月六日付願頭書ノ物件ヲ愛知醫科大學豫科ニ寄附ノ件許可ス 指令学3899号	28 × 20、県野紙	履歴書に無し
158	辞令類	大正10年6月2日	川口彦治	愛知縣知事	大洋ノ深部探検外二十三種 大正十年五月六日付願頭書ノ書籍ヲ愛知醫科大學ニ寄附ノ件許可ス 指令学3899号	28 × 20、県野紙	履歴書に無し
159	感謝状	大正13年10月31日	山脇春樹	愛知県知事從三位勲二等	褒状 愛知県名古屋千種町奈良坂源一郎 大正十年六月愛知県医科大学へ大洋ノ深部探検外二十三種及珊瑚類骨軸外八種寄附ス仍テ褒賞條例ニ依リ之ヲ表彰セラル	27 × 37	履歴書に無し
160	招待状	昭和3年11月1日	一木喜徳郎	宮内大臣	来十六日大饗第一日ノ儀行ハセラルルニ付当日正午愛知県第一中学校校庭ニ於テ饗饌ヲ賜リ候條此段申入候也	19 × 14	賜饗資格届の下書き共菊御紋封筒入り履歴書に無し
161	辞令類	昭和3年11月16日	天岡直義	賞勳局總裁正四位勲二等	大札記念章之證 從五位勲六等奈良坂源一郎 昭和三年勅令第百八十八号ノ旨ニ依リ大札記念章ヲ授与セララル [後記] 此證ヲ勘査シ第二十七万八千四百五十二号ヲ以テ大札記念章簿冊ニ記入ス 賞勳局書記官從五位伊手衡	33 × 42	
162	推薦状	昭和5年4月	日本解剖学会		会則第十壹條ノ規定ニ依リ貴下ヲ本会名誉会員ニ推薦ス	25 × 34	4月20日付第38回会頭塚口利三郎名の推薦状、封書とも